



令和4年(2022年)6月10日発行

2~5...特定健診・がん検診 6~7...BE YOURSELF (あなたらしく)  
9...職員採用試験 10...いきいき教室 14...ひとり親世帯給付金

新型コロナウイルスワクチン4回目接種のお知らせを同時配布しています

「なばり市議会だより」は、8ページをご覧ください

発行/名張市 秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉ pr@city.nabari.mie.jp



## 環境回復のシンボル「名張のホタル」を次代へ ホタルの守人

名張のホタルは、江戸時代、藤堂家に献上されるなど、その歴史は古く、全国でも有数の発生地でした。しかし、昭和40年代以降、住宅開発が進み、その数は減少。一時はホタルが見られなくなり、その数は今号では、「名張のホタル」を次の世代に残そうと保全活動をされている吉岡正夫さんの取組をご紹介します。

ホタルの保全活動は私がこの世に生きた証

50歳になった頃。このまま人生が終わるのは寂しい、残り少ない人生で生きた証を残したい、そう思ったのがきっかけです。ホタルの保全活動の研究をしている大学の先生に手紙を出し、保全方法を教えていただき、本格的に活動を始めました。私が行っていることは、ホタルの幼虫のエサとなるカワニナなどの放流です。ホタルの成虫を放流するだけでは、自然に増えてはいきません。エサを放流する方法は、時間はかかりますが、私がいなくても、人の手をかけずにホタルが生育でき、自然と増えていく。まさに私が生きた証を残せるのではないかと考えました。

### ホタルの守人 吉岡 正夫さん

50歳でホタルの保全活動を開始。今年で20年目を迎える。市内外からも保全活動の依頼を受けている。ゲンジボタルとヒメボタルの保全に取り組む

### ホタルの光が子どもたちの原風景になれば

ホタルは環境回復のシンボル。20年前は、ほとんどホタルは飛んでいませんでした。目に見えて増え始めたのは、活動を始めてから4年目。継続して取り組んできたことで、昨年は、約3万4千匹のホタルが飛び交うまでになり、着実に数は増えてきています。

ホタルの幼虫は川岸に生息しています。流れてきたごみも川岸に溜まってしまふため、幼虫やカワニナの生育の妨げになり本当に困っています。だから、川のごみ拾いも、ホタルの保全活動にとって重要な取組です。でも、不法投棄が後を絶たず、ダンプリン杯分のごみが捨てられていたこともありました。

生育環境を保つことは難しいですが、壊すことは簡単です。ホタルがいなくならないためにも、不法投棄は絶対にやめてほしいです。かつてホタルが多く飛び



ホタルの幼虫のエサとなるカワニナ



エサを放流しながらごみ拾いも行う



鉄橋付近でエサとなるカワニナを放流

交っていたころは、名張のホタルを見るために、大阪方面から近鉄電車を走らせていたこともあったそうです。実は2年前、電車の車窓からホタルが見られるように、鉄橋近くでもホタルを飛ばしたいとまちづくりの役員でもある元近鉄電車の副社長に提案しました。ホタルが飛ぶまでにはあと1、2年はかかりそうですが、これまでの経験を生かし、実現させたいです。名張の宝であるホタルが乱舞する風景が、いつまでも子どもたちの記憶に刻まれるようになればいいですね。体力が続く限り、ホタルの保全活動を続けていきたいです。



不法投棄という身勝手な行為で困るのは、人間だけではなく、そこに住む全ての生き物に迷惑がかかります。今ある自然は当たり前ものではありません。次の世代に残すためにも、今一度、環境を守るために自分たちができることを考えてみませんか？